

地域・在宅看護学実習

ナンバリング:N3-S1-D05

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 岩渕 光子 教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	3	区分/単位数	実習/3単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

訪問看護ステーション、地域包括支援センター、在宅ケア機関など多様な場での実習をとおして、住み慣れた地域の中でその人らしい生活を送れるために、健康支援技術、多職種・多機関との連携の重要性、各ライフステージにおいても疾病や障害を抱えていても暮らしやすいまちづくりについて学修する。訪問看護ステーションでは、対象者への訪問看護に同行し、生活・ニーズをとらえた看護過程の展開を行い、対象者の疾患、障害、社会的背景にあわせたケアマネジメントの実践を学ぶ。地域包括支援センター、在宅ケア機関では、生活圏域の社会資源マップ作成をとおして地域特性をとらえ、サービス担当者会議や地域ケア会議、健康教室等への参加、家庭訪問・来所相談への同行などを通し、個から集団・地域への働きかけ、健康を支える視点を学ぶ。又、学生各々の経験を総括して共有し、今後の地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について考察する。

・教育成果(アウトカム)

地域・在宅ケアの場での実習を通して、地域に暮らす人々の多様な価値観・健康観に触れることで、様々な対象(個人・家族・集団・組織・地域)への働きかけによる相互作用で、地域住民の健康支援・エンパワメントにつながる事が理解できる。保健・医療・福祉の実践を知り、地域共生社会に向けた自らの看護観を深めることができる。	
【学位授与方針と当該授業科目との関連】 本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。	
1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 地域で生活している人々の健康やQOLの向上のために、対象となる地域の特性を知り、地域づくりについて説明できる。 2. 保健・医療・福祉の実践を知り、我が国における保健医療制度・社会福祉制度を説明できる。 3. ケアマネジメントの実践を知り、地域・在宅看護過程が展開できる。 4. あらゆる年代、健康レベルを対象とした地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携の中で看護職が果たす役割を説明できる。 5. 看護の対象となる人々(個人・家族・集団・地域)との信頼関係の形成に必要なコミュニケーションを展開できる。

・実習日程

日程	各グループの実習期間は実習要項等に記載する。
担当教員	地域包括ケア講座 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教 藤澤 純子 助教 五日市 瑠美子 助教

授業内容/到達目標	【授業内容】 3週間の実習期間中、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所または障がい児・者支援施設、相談支援機関で実習する。 1. 訪問看護ステーション実習 ・受け持ち事例における地域・在宅看護過程の展開を実践する。 ・訪問看護師に同行し、疾病や障害と共に生活する療養者・家族への看護を見学・実践する。 ・訪問看護ステーションの機能と役割、地域医療連携や高齢者施設との連携について学ぶ。 2. 地域包括支援センター実習 ・担当する圏域の地域特性を捉え、地域における健康課題とその取り組みについて学ぶ。 ・多職種、住民との連携による地域づくりについて学ぶ。 ・地域包括支援センターの機能と役割、地域包括ケアシステムについて学ぶ。 3. 居宅介護支援事業所 ・介護支援専門員（ケアマネジャー）の業務と役割について学ぶ。 ・連携する各職種の役割について理解し、ケアマネジメントについて考察する。 4. 障がい児・者支援施設、相談支援機関 ・地域で生活する障がい児・者と家族の生活を理解する。 ・相談支援専門員の業務と役割について学ぶ。 ・連携する各職種の役割について理解し、ケアマネジメントについて考察する。 5. 最終報告会 各々の実習体験のプレゼンテーションを行い、学びを共有することで、今後の地域共生社会に向けた支援のあり方についての考えを深める。 【関連するSB0】1、2、3、4、5 【事前学修:60分/日】 課題ワークシートとして、在宅看護にかかわる法令・制度、訪問看護の仕組み、地域包括支援センターの機能と役割、地域包括ケアシステム、ケアマネジメント等についてまとめる。 【事後学修:90分/日】 地域・在宅看護過程の展開、関係職種の役割、地域包括ケアシステムや地域における健康課題、ケアマネジメント等について、実習で学んだことをそれぞれの記録用紙に記載する。 ※詳細は実習要項参照
-----------	---

・教科書・参考書等		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア 第8版	臺有桂	メディカ出版	2025
教	ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術 第3版	臺有桂	メディカ出版	2025
参	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基盤	河原佳代子	医学書院	2022
参	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践	河原佳代子	医学書院	2022
参	地域・在宅看護実習ハンドブック	尾崎章子	中央法規	2021
参	看護学テキストNICE 地域・在宅看護論 I 総論 改訂第3版	石垣和子	南江堂	2024
参	家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 第6版	渡辺裕子	日本看護協会出版会	2021
参	関連図で理解する在宅看護過程 第2版	正野逸子・本田彰子	メヂカルフレンド社	2021
参	強みと弱みからみた地域・在宅看護過程 第2版	河野あゆみ	医学書院	2023

・成績評価方法
【総括的評価】地域・在宅看護学実習評価表に基づき評価する。 なお、「実習への取り組み状況」の評価は、実習機関からの評価も参考にする。（地域・在宅看護学実習要項参照）
【形成的評価】実習巡回時の面談や記録物により学修成果を確認する。

・特記事項・その他
【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 個人面接を実施し、実習記録は評価後に返却する。
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 保健師(別表1):臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習 看護師(別表3):臨地実習 地域・在宅看護論
【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有 地域における保健師や病院看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的			
使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			